



# 総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ(toto)助成金を受けて配信しています。  
スポーツ振興くじ(toto)については以下から

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



スポーツ振興くじ助成事業

## 特集 安定的な財源の確保に取り組むクラブ



- ▶▶▶ まる倶楽部
- ▶▶▶ NPO法人なかよしクラブみずほ

## 特別企画 イベントを通じて地域に存在をアピールするクラブ



- ▶▶▶ NPO法人Tap
- ▶▶▶ 京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

## 連載 みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント



- ▶▶▶ NPO法人 新町スポーツクラブ



助成金情報 ▶▶▶ 詳細



お知らせ ▶▶▶ 詳細



バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人  
日本体育協会





## 特集

### 安定的な財源の確保に取り組むクラブ



#### まる倶楽部 〈神奈川県横浜市〉



日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、事業受託・会費の設定を工夫するなど、財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。



1. 受益者負担の観点で参加費を100円から300円に値上げ
2. 5年間の市体協補助金を初期整備費として活用
3. 10年後を見据えた運営で指導者不足を解消
4. 地域に眠っているハイレベル経験者を登用

#### 1 クラブ概要

平成16年10月、横浜市神奈川区片倉地区において、体育指導委員、青少年指導員、スポーツ団体代表者、スポーツ指導者等が中心となって地域における生涯スポーツについての話し合いが行われました。地域スポーツ環境における多くの課題等について話し合いを重ね、次第に話題の多くは、多世代、多種目、多趣向で地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの話題が中心となっていきました。その後、「できることを楽しくやろう」と、横浜市立中丸小学校学校開放運営委員会が中心となり、2年間横浜市教育委員会の学校開放活性化事業を通じて様々なイベント等を仕掛け、平成18年から総合型地域スポーツクラブの設立を目標に地域住民へのクラブの周知やスポーツ体験教室、体験イベント等が開催されました。



平成21年2月までに徐々にクラブの目的や活動内容も地域に浸透し、クラブ運営体制も整ってきたため、同年3月設立となりました。「地域のため」を最優先事項として活動を行い、平成28年度には、年間41種目(703回)の教室、4つ(15回)の主催イベント等を実施し、教室・イベントには23,000を超える人々が参加しています。

## 2 運営委、小学校、PTA三者で連携→学校開放事業が発展

横浜市学校開放事業を20年前からクラブ関係者が実施していたこともあり、学校開放を行っていた中丸小学校とはクラブ設立前からつながりがありました。クラブ設立前から、小学校の体験学習のための事前学習として、カヤック体験をプールで行うなど、現クラブ会長が小学校との信頼関係を築き、学校側も活動に対して協力的な雰囲気がありました。また、クラブ設立時には、現会長が小学校のPTA会長に就任していたこともあり、学校開放運営委・小学校・PTAの三者が連携を図ることもできました。現在では、学校からはクラブの活動に対し様々な協力を得ています。

### 【学校からの主な協力内容】

- 印刷機の使用(インクや紙はクラブ準備)
- 体育館内の一室をクラブ事務局として利用
- 体育館の倉庫の一部をクラブの用具置き場として使用、体育館近くに用具倉庫を設置
- クラブの活動への教員の参加(参加者として参加)

## 3 「地域全員を対象」との理念から会費ではなく参加費を選択

クラブ設立時から、「地域のため」のクラブであるため、会員として一部住民を囲うような形をとらずに、「地域全員を対象とする」考えのもと、会費という制度ではなく、参加費を払えば参加できるという形式をとっています。

現在は、参加の意思を示すため、また、受益者負担の考えから、一つのプログラムの参加につき、参加費は一人300円としています。クラブ設立当初は参加費を100円としていましたが、クラブ運営全体を考え、参加者の負担になりすぎない金額ということで300円に値上げを行い、現在に至っております。



## 4 謝金（支出の57%）を参加費で賄う 保護者・学校との対話を重視

設立から5年間は、横浜市体育協会の補助金を受けていましたが、その補助金を受けている当時から補助終了後を見据えて活動をしていました。そのため補助金では、運営拠点整備や活動のための初期整備費としてスポーツ用具、冷蔵庫、製氷機等を購入しました。

現在では、クラブ全体の支出のうち謝金が57%（教室指導謝金約42%、運営人件費約14%）を占めていますが、教室やイベントの参加費のみで賄うことができます。なお、指導者謝金はコアになる指導者にのみ渡すことしかできていないというのが現状です。

参加者を集めることがクラブの収入にもつながるため、参加者をいかに集めるかということにも重点を置いています。現在は、地区の小学生・中学生のほか、20代から40代の方々が多くクラブの活動に参加しています。ただ、地域を大切にしている当クラブとしては、まずは当該地域の住民が参加できることが第一と考え、大々的な広報は行っておりません。広報等の大きな仕掛けを行っているわけではありませんが、参加者のニーズを取り入れ、クラブ運営に生かすために活動中の保護者との対話や学校との対話を重視しています。保護者との対話では、将来的にどのような子どもに育ててほしいかの希望等、学校側とは学校が持つ課題等を聞き、その課題解決に向けたお手伝いができるような事項があれば、クラブの活動に取り入れる等の取り組みを心がけています。

また、運営側としても、クラブが提供するサービスの質が良ければ、人が集まるということ意識し、「人が人を呼ぶクラブづくり」を目指しています。

## 5 人とのつながりを重視 協力者を集めクラブ活性化

クラブでは人とのつながりを重視し、設立時から、今後10年間を見据えてクラブ運営を行っています。例えば、設立時の小学生の参加者に対しては、10年後の大学生になったときにクラブに参加者や指導者として戻ってきてもらえるように考えていました。現在では、チアダンス教室において、クラブの教室に参加していた小学生が大学生になり、友だちを連れてクラブに参加するようになり、その友だちが指導するというように、つながりが大きくなっています。

参加者がお客さんという立場でなく、自分のクラブという意識を持てるようなクラブの活動を目指した結果、指導者としてもクラブの活動に参加してくれる人が増え、指導者不足も解消されました。クラブには、20代～40代の参加者が多くいます。その世代の参加者は、大人を対象とした教室に参加して、自身もスポーツを楽しみつつ、子どもを対象とした教室の指導者がいない場合には、指導者としてもクラブの活動に参加いただいているほか、クラブに要望があったクラブ外部のイベントにおいても指導者として活躍いただいています。



また、過去に全国大会や国際大会に出場した経験のある方が、実は地域には眠っています。そのような方々にもクラブの存在を知ってもらい、積極的にクラブ活動に参加いただいています。クラブに関わる人が増えることは、刺激になるだけでなく新しい視点等を取り入れることができるため、経験者の登用を重視しています。

学校との連携という点では、小学校・中学校・大学とは既に連携を取っており、特に大学との連携においては現会長がクラブ運営に関する講義を大学で行ったり、クラブで学生を受け入れています。大学生がクラブに関わることによって、クラブ運営に大学生の発想を反映することができ、刺激にもなっています。

このほか、クラブ運営スタッフも様々な団体が行う研修に参加し、指導や運営に関して情報を収集するようにしています。そして、クラブでは常に同じことを行うのではなく、新しいことを取り入れるようにしています。

## 6 今後の課題

「今、何ができて何が必要か」を語る人を増やすことがクラブの課題です。平成30年にクラブ設立10年を迎えることもあり、現在、今後のクラブ運営について検討しています。その検討事項の中には、クラブの法人化や現在クラブが行っている教室をチーム化することなども含まれています。

まずは、今後10年のビジョンを持ち、慌てずに目の前のことに取り組み、人とのつながりをつくりながら、参加者のニーズを捉え、提供していきたいと考えています。

(まる倶楽部 会長 貝川 弘行)



## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成21年3月20日

**所在地** 神奈川県横浜市神奈川区

**運営** 会員数1,181名（平成29年3月現在）

**予算規模** 200万円(平成29年度)

**有給職員** 6名

**特徴** 大きな特徴としては、学校、地域連携型のクラブです。学校内に事務所を持ち、学校行事、特別活動の補助をしたり、連合会町内会レベルの地域連携にも力を入れています。学校開放事業をもとに、クラブづくりをしたので、中学校区を基盤としての広がりがあります。学校の特別活動にも週5日と積極参加をさせていただいています。近隣スポーツセンター、地区センター事業とも連携し、より多くの地域の方々へ活動を提供しています。また、市の施策「放課後キッズクラブ」との連携も多く取り入れ、共同事業を展開しています。独自の教室展開も多岐にわたり、昨年も41種目を提供しました。0歳～90歳までの参加者、障がいを持つ方々への環境提供も5年目となりました。  
みんなでつくる、みんなのクラブ！

**連絡先** 〒221-0801 横浜市神奈川区神大寺3-17-1 中丸小学校内  
電話番号 045-481-0890  
E-Mail [staff@maruclub.net](mailto:staff@maruclub.net)  
URL <http://maruclub.net>



# 特集

## 安定的な財源の確保に取り組むクラブ

### NPO法人 なかよしクラブみずほ < 岐阜県瑞穂市 >

日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、事業受託・会費の設定を工夫するなど、財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。



1. 5年後10年後の目標ロードマップを作成し黒字化目指す
2. 子ども向け運動教室の出前講座で実績作り→市と年間契約
3. 施設利用料、謝金に最低施行人数を加味して会費を設定

## 1 クラブ概要

平成18年夏にクラブの設立準備が始まり、社会教育主事の先生を中心にスポーツ少年団の関係者、体育指導員、地域の社会体育団体代表者の方などが何回も検討事項を調整し平成20年に本活動が始まりました。設立までは社会教育主事の先生にお力を借り、当時お願いしたスポーツ教室の講師陣もほとんどが現在も変わらず指導者です。本業をこなしながらクラブの相撲教室の指導も担うという前理事長の牽引力、動員力は現役員たちも多くを学ばせてもらっています。

『健康で長生き』をするために青少年も成人も高齢者も仲良く育み合うクラブとして2008年9種目14教室から始まりました。そして、2012年開催のぎふ清流国体でキッズダンスを踊れるチームを作ろうとキッズダンス教室を生徒16人で始めました。その教室はあっという間に70名を超えるメンバーになり、予選を経て長良川のメインスタジアムでミナモダンスを踊ることができ、クラブで1、2を争う人気教室となりました。ぎふ清流国体では、瑞穂市はボウリング会場でしたが、国体の前年からプレ大会が開催され、その折にもキッズダンスのパフォーマンスを市から依頼されました。本番の年はもちろん、成人式や地元の祭りやフェスティバルなどにも声が掛かり、子どもたちも沢山の経験を積むことができました。クラブとしても瑞穂市との協働をさせてもらいキャリアと信頼関係を構築していくことにつながりました。



現在常設教室は一週間16種目27教室。教室運営による事業収益は財源に対して54%で、その他に受託事業費が32%です。活動状況としては、子ども向け教室の成長が目覚ましく年々参加者が増加しクラス数を増やしたりして対応しています。

また、地域に発信するために、盆踊り大会・キャンドルナイト(8月)、地域のふれあいフェスタ(11月)、GKDダンスフェスティバル(12月)、市民体力測定会(2月)の4つのイベントを行っています。広く近隣住民の皆さんに活動をPRし、クラブへの参加呼びかけを続けています。



## 2 財務計画・会費設定上の注意事項と工夫

大きく10年後に在りたいクラブの目標を立て、その間前半5年間と後半5年間の活動予測をしながら、理事長・クラブマネジャーが中心となり、クラブのロードマップを作りました。そのマップをベースに5年後に目標を達成するために今年は何をするべきかを考えながら、年間の教室運営、イベント事業、バス事業、市との協働事業のバランスや見積もり、成長予測を立てるようにしています。

その中において各教室運営の黒字達成は必須事項として取り組んでいます。参加人数不足の場合は、市の広報誌である「広報みずほ」のクラブの情報掲載スペースに教室案内を再度掲載したり、ポスターを作成して公民館やコミュニティーセンターへ掲示したり、講師による声かけなど広報活動に力を入れることにより参加人数を確実に安定するようにしています。

受託事業については幼児支援課に相談させていただき市内9つの幼・保育園に運動教室の出前講座を実施し、市と園の目的を共有しながら実績を作りました。その後、保育士の方々からも熱心なオファーを市にさせていただき、正式に年間を通して巡回教室を契約する運びとなりました。また、その教室は常設のキッズ運動教室としてクラブでも毎週行われていて大人気の教室となっています。



会費の設定は、高齢者のクラスは極力リーズナブルに設定できるよう注意を払いますが、施設利用料、謝金などのほか最低施行人数も加味して算出します。新設教室を開設する際には体験教室を常設同様に開いて市民のニーズと合っているか調査し、開講可能かをシミュレーションし、最低施行人数を賄うことができるかを確認します。また、受益者負担であることを説明の上、妥当な会費を設定するよう注意しています。ただ、体験会に参加しても実際の教室には参加しないケースもあり、人数不足による運営費の圧迫が起こる時は急遽追加チラシを作成して再募集することもあります。逆に予定を超える参加者の時は教室を増やして対応したり、それでも足りない場合はキャンセル待ちとします。

また、クラブの運営状況を確認するために、執行役員会(毎月1回)、教室部会、教室部長・クラブマネジャー間の話し合い、社員会(年4回)の各場においても、教室運営状況等について意見交換しています。



### 3 財源確保で意識と処理能力が向上

事業による財源の確保は、新規事業取り組みに対するモチベーションのアップやクラブ職員の増員が可能になり、それにより事務局の処理能力が上がるという効果も生まれ、より良い活動につなげることができます。

### 4 理念とポイント

財源確保のために自主事業の安定化(人気の教室はとことん伸ばす)を図るとともに、地域住民の求めるものは何か、楽しいことは何かを会員との会話を通じていつも観察するようしながら、タイミングを外さないで動くようにしています。

### 5 今後の課題・展望

高齢者向けの教室がマンネリ化しているので新しい取り組みをして新規会員を増やす工夫が必要と考えます。また、totoバス活用事業を展開し市民に貢献できる活動をクラブの財源の一つにしたい。

(NPO法人なかよしクラブみずほ クラブマネジャー 小森姿磨子)



## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成20年3月8日

**所在地** 岐阜県瑞穂市宮田300番地1

**運営** 会員数600名(平成27年4月現在) 予算規模2,200万円(平成29年度)

**有給職員** 6名

**特徴** 瑞穂市は、濃尾平野の北西に位置し人口53,000人、面積は28km<sup>2</sup>です。クラブ事務局が市役所分庁舎隣の公民館内にあるので市役所との打ち合わせなど連携が取りやすいですが、市役所職員と間違われることも多々あります。夏の盆踊り大会は地域住民を巻き込んで来場者、出店者共に少しずつ増え、お盆中だからこそ会えるコミュニケーションの場作りを目指しています。一昨年からはキャンドルナイトも並行して開催しています。クラブの事業は教室運営によって支えられていると言っても過言ではありません。

**連絡先** 〒501-0305 岐阜県瑞穂市宮田300-1

電話番号 058-328-3825(FAX 同)

E-Mail [info@ncmizuho.com](mailto:info@ncmizuho.com)

URL <http://ncmizuho.com>



## 特集企画

### イベントを通じて地域に存在をアピールするクラブ



#### NPO法人Tap ＜新潟県中魚沼郡津南町＞



#### 1 クラブ概要

有志が中心となり地域の問題点を見直してみようと組織を立ち上げたのが、Tapの始まりです。「つながりの希薄化」と「利己主義の台頭」を問題点として、理念を「つながりで人づくりとまちづくりをします。」と決めました。toto助成金を受けている際には事務局を行政の臨時職員が担当し、立ち上げと同時に法人格を取得して町の社会体育事業の受託を開始しました。今では町健康増進施設の指定管理も受託しています。



## 2 町外親子対象に「雪遊びツアー」、町内旅館との連携で実現

平成26年度から町内の旅館と行政と共に、町外の親子を対象とした豪雪地ならではのかまくらづくり等を行う雪遊びツアーを実施しました。それまでは、地元の子どもたちを対象にそり乗りなどの遊びを実施していましたが、町外の親子を対象にする事業は展開したことはありませんでした。イベントを準備する中で、クラブでできること、できないことが見えてきたため、クラブから旅館へ協力の依頼をしたことをきっかけに、旅館と連携することとなりました。連携により、クラブはイベントの運営をし、旅館は集客、送迎、食事の提供等の役割分担ができるようになりました。雪遊びツアーの実施後「県外の子どもに雪遊びを体験してもらったけど、地元の子どもこそ、かまくらづくりの経験が少ないのでは...」と思うに至りました。その後、更なる発展を目指し新潟県広域スポーツセンターの「総合型地域スポーツクラブ協働展開事業」に応募し、平成27年度から「雪遊びキッズ」、「スノーシューハイキング」、「雪原運動会」の3事業を実施しました。



## 【新潟県総合型地域スポーツクラブ協働展開事業】

### 1. 事業の趣旨

新潟県総合型地域スポーツクラブ(新潟県総合型クラブ)の地域における認知度・理解の向上と役割の確立を図り、クラブの自立を促すため、それぞれの地域の実情を踏まえ、各分野と協働してスポーツを活用した質の高い公益事業を提供することができる新潟県総合型クラブを育成する。

### 2. 事業の実施主体

新潟県総合型クラブで、新潟県広域スポーツセンターが指定する団体。

### 3. 事業の内容

新潟県総合型クラブが地域の各分野と連携し、スポーツを活用した質の高い公益事業を地域住民に提供。

### 4. 事業による効果

- (1)クラブの事業の充実・拡大による財源確保(運営安定化)
- (2)地域におけるクラブに対する認知度・理解の向上、役割の確立



クラブの自立

## 3 地域資源を「雪」に特化、3事業を展開

### 【雪遊びキッズ】

町内の子どもたちを対象にして、スコップやスノーダンプといった雪国では欠かせない道具の使い方や雪遊びを体験してもらうだけでなく、雪遊びライセンスを設定し、レベル別にバッジを配布して意欲の向上を図りました。2年目の平成28年度には地元雪まつりでスコップやスノーダンプを使い、大きな雪像を作ることができました。安全に雪で遊べる機会を設けることにより、今の子どもたちも自ら考え、楽しい遊びを発想できることに気づきました。

#### ※雪遊びライセンス

学年ごとに、「雪玉をしっかり作れる」、「〇〇の大きさの雪だるまを作れる」といったように作業を段階に分け、規定の作業ができるとバッジ(学年ごとに色分け)を配布。





### 【スノーシューハイキング】

雪の上を楽に歩くための道具であるスノーシュー（西洋かんじき）を履いて、雪原をハイキングするイベントを計画しました。町内旅館からは事前に宿泊者への周知や声かけをして集客をしてもらいましたが、当日はあいにくの天候も重なり参加者が0名という、今までにない結果となりました。

2年目の平成28年度には近隣の観光協会やカフェなどの協力者を増やし、津南町に色濃く残る縄文文化と雪国文化に触れる雪上での「縄文ハイキング」に企画を変更し実施しました。近隣の湯沢町に来ている外国人観光客を主な対象として、約1か月間毎日実施できるように観光協会とも協働して事業のPRを行いました。結果的には視察等の受け入れはあったものの参加者実数としては0名でした。

この企画によって観光関係者との多くの新しい「つながり」を持つことができ、Tapを知ってもらいきっかけになりました。また、PRの方法や事業を実施する上での役割分担など観光事業を継続実施する難しさを感じることができました。



## 【雪原運動会】

町内の雪まつりに来た宿泊者などを対象に雪原運動会を開催しました。愛知県から来ていた家族などが参加して、スノーフラッグや雪積み競争など雪に触れることだけでも楽しそうに活動していました。賞品には地元の特産品を用意して喜ばれました。ただ、参加者は雪遊びができるような服装ではなく、雪の降らない地域から参加する場合の対応策を考えるきっかけとなりました。

2年目の平成28年度には、県内の総合型クラブを対象に計画をしました。クラブ同士の「つながり」が観光にもなると期待していましたが、年度末での開催に加え近隣クラブでは事前に同様の雪イベントを開催していたことで参加クラブはありませんでした。総合型クラブ同士の交流イベントは参加クラブ全体で計画、実施しなければ思うような効果が上げられないことがわかりました。



## 4 Tapの存在認知 旅館との協力関係構築

子どもたちが雪遊びを体験できたことで郷土教育にもなり、故郷の良さを感じてもらえました。また、この事業を始めるまではTapの存在を知らなかった旅館にも、Tapの活動を知ってもらうことで事業の相談ができ、協力関係をつくることができました。継続して集客できれば、収入増への期待を持てることもわかりました。

そして、今まで観光に携わっていなかったTapが事業や会議などを行うことで観光関係者の意欲向上のきっかけをつくることができました。また、地域活性化の一つとして観光、スポーツツーリズムがあることを関係者で共有できました。



## ◆不可欠な役割分担と信頼関係

スポーツツーリズムを企画するにあたっては、郷土の資源をもう一度再認識、再確認することから始めなければなりません。そして、企画から周知、実施の過程では様々な関係者との役割分担が必要不可欠です。そのためにはコミュニケーションをよくとり、信頼関係を築かなければなりません。スポーツツーリズムはすぐに結果が出ないため、じっくり継続していくことが重要であり、総合型クラブは受け入れスタッフとして、今後活躍できる機会がありそうです。

スポーツツーリズムに取り組んだことで一番感じたことは、人との「つながり」の大切さでした。これからは理念をもとに長期的なビジョンを創り、様々な人や団体との「つながり」を大切にして人づくりやまちづくり、健康づくりに取り組んで地域に必要なクラブを目指します。

(NPO法人 Tap マネジャー兼事務局長 江村大輔)

### クラブプロフィール

<b>設立年月日</b>	平成25年3月26日
<b>所在地</b>	新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁1633番地1
<b>運営</b>	会員数169名（平成29年5月現在）予算規模9,940万円（平成29年度）
<b>有給職員</b>	8名
<b>特徴</b>	「つながり」を理念に様々な人や団体と活動を展開している。 行政との協働関係を築き、ともにまちづくりに取り組んでいる。 子どもたちの遊び活動とアクティブシニアの健康づくり活動を展開している。 また地域の資源を生かしたイベントも行っている。 ウエイトリフティングの普及や観光との協働にも取り組んでいる。 「Tap」は「Tsunan all people」の頭文字と、「おもしろそうだから私も協力するよ」と肩をたたいて(タップ)一緒に楽しもうという意味が込められている。
<b>連絡先</b>	〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁1633番地1



## 特集企画

### イベントを通じて地域に存在をアピールするクラブ

## 京都府総合型地域スポーツクラブ 連絡協議会

地域におけるクラブの存在意義や価値を高め、クラブの自立・自律に向けた活動を促進するために、地域の住民間の交流を深め、地域活性化に寄与するイベントを実施することは、地域にクラブが根差すために重要な取り組みの一つと考えられます。

そこで、今回はイベントを通して、クラブの存在を地域にアピールする京都と新潟の取り組み事例を紹介します。



### 1 連絡協議会概要

京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(以下、連絡協議会)は、京都府内における総合型地域スポーツクラブ(以下、クラブ)の横の繋がりを強化することにより各クラブの活動の活性化を図り、京都府のスポーツ振興に資することを目的として活動しています。設立当初は京都府を3つのブロックに分け「北部ブロック」・「中部ブロック」・「南部ブロック」とし、14の加盟クラブで構成されていました。現在は、加盟46クラブとなり、ブロックも南部ブロックをさらに2つに分け、「北部ブロック」・「中部ブロック」・「乙訓・京都市ブロック」・「山城ブロック」の4ブロックで活動しています。

平成27年度から運営委員会を設置して事業の企画・運営を主体的に行い、連絡協議会の今後の発展に向けて検討しているところです。運営委員会では月1回の定例会議をもち、専門部会や各ブロック会議を随時開催し、加盟クラブが一丸となって組織化に取り組んでいます。各ブロックでは、ブロック内の全クラブが協働して情報交流や親睦を図るための事業であるブロック交流会を企画・運営しており、ブロック相互に刺激し合うなど、とても良い効果が表れてきています。

## 2 企業との協力関係で「グルメリレーマラソン」を運営

京都ご当地グルメリレーマラソンは平成25年度から始まり、今年度で5回目を迎えます。このイベントはクラブの財源不足という課題解決のためのアイデアから生まれたもので、イベントで得た収益を各クラブや連絡協議会本体へ還元するという仕組みを作っています。公益財団法人京都府体育協会・企業・連絡協議会の三者で実行委員会を組織して企画・運営を進めており、企業と協力関係を結ぶことでクラブや行政だけでは難しい大きな事業を成功させています。1クラブや1団体だけでは出来ないことも、複数のクラブや団体が協力・協働して取り組むことでそれを可能にしています。また、このイベントは京都府民総合体育大会（以下、府民総体）の一環として実施しており、京都府教育委員会のバックアップもいただいています。当日は、府民総体オープニングフェスティバルが同日開催となり、グルメリレーマラソン参加者だけでなく大勢の方が来場され、毎年会場の賑わいを創出しています。



## グルメリレーマラソンの開催種目と参加資格

### 【開催種目】

#### (1)リレーマラソン

「FUN RUN(仲間と走ろう42.195km)」をテーマに、1チーム6～14人での周回コース(計42.195km)をタスキリレーし、チームで完走する競技。走る順番や何周走るかは自由。

#### (2)シャッフルリレーマラソン

1～5人で応募し、大会当日に主催者側からの発表で1チームを編成して走るマラソン。走ることが好きな人同士が当日初めて出会い、完走を目的として一丸となるユニークな競技。

### 【参加資格】

#### (1)リレーマラソン

42.195km(2.1km×20周+200m)を1チーム6人以上14人以内のチームで完走でき、一人で1周2.1kmを自力で走れる小学生以上の男女。

#### (2)シャッフルリレーマラソン

一人で1周2.1kmを自力で走れる高校生以上の男女。

## 企業はイベントの運営、連絡協議会は広報活動 役割分担を明確化

第1回開催は連絡協議会から企業に声をかけ、企業と連絡協議会の二者のみの体制でスタートしました。企業とクラブが協働で事業を行うことの壁が大きく、企業と連絡協議会加盟クラブ有志が委員となった実行委員会の会議ではたくさんの意見のぶつかり合いがありました。全てが初めてのことで全員が手探りの状況で進めていったため情報共有がうまくできず、当日の運営ではスムーズにいかない場面が多々ありました。これは双方の役割分担の擦り合わせが不十分であったために起きたことだったと思います。第2回目からは第1回大会の反省を十分に行い、運営面、役割分担、双方の思いをしっかりと擦り合わせて取り組み方を大きく変更しました。その結果、企業はグルメリレーマラソン本体の運営を行い、連絡協議会は参加募集のための広報(府内総合型クラブへの案内や広報協力依頼、関係各所へのチラシ配布、ポスター掲示等)と当日のクラブ特設ブースでの取り組みに注力することになりました。広報活動では、連絡協議会加盟全クラブへチラシ・ポスターを配布し、広報活動への協力を得るほか、イベント当日には、連絡協議会から30名程度(連絡協議会加入7クラブのスタッフ含む)がスタッフとして携わっています。それぞれのやるべきことが明確になったことで、とても取り組みやすくなり少しずつ成果が表れてきました。目標としていた参加者3,000名という壁をなかなか越えられない苦しい時期が続きましたが、前回大会でやっと目標を達成し、3,394名の参加を得ることができました。三者それぞれが持っている強みを生かして様々な方面から広報を行い、リピーターを増やすために毎年少しずつ内容に変化を加えながら企画をしてきました。口コミにも期待し地道に続けてきた取り組みがようやく成果となり実ってきたものと思います。





#### 4 継続開催でスタッフに意識の変化→集客目標に到達→収益

このイベントに取り組んだことで連絡協議会加入クラブの皆さんの意識に変化が見られました。連絡協議会の取り組みとしては参加者への広報とクラブ特設ブースでの企画・運営が中心でしたが、当初はこのイベントの狙いをなかなか理解してもらえず、クラブからの協力が得にくい状況にありました。しかし、継続して開催することで徐々に理解が深まり、協力者が増え、積極的に関わるクラブが増えていったように思います。クラブ特設ブースではドリンクや軽食などの販売をし、その収益を連絡協議会の財源の一部にしています。クラブの枠を超えて連絡協議会の財源確保のために自分たちの手で実際に収入を得るという経験は、連絡協議会の今後の発展に繋がるものだと感じています。集客目標の3,000名を達成したことで収益もあがり、目に見える成果が表れてきたことがモチベーションの向上に繋がっています。このことを通してクラブの枠を超えた連絡協議会の一員であるという意識が芽生えてきたように感じています。これは時間をかけて粘り強く取り組んでこられた皆さんの大きな成果だと思います。

#### 最北クラブの関わり方が今後の課題

今年度で5回目を迎える大会となりますが、今後も永く継続して開催できるように取り組んでいきます。そのためには、まず、運営側が楽しむことが大切で、参加者はもちろんですがスタッフも楽しめるようなイベントにしていきたいと思います。現在は、連絡協議会の総力を挙げた事業とまでは言えないのが現状です。京都府は南北に長く、最北のクラブから最南のクラブまで高速道路を利用しても3時間はかかるような地形であり、南部地域で行われるこのイベントに北部



地域のクラブとしての関わり方が難しいという課題があります。その部分をクリアできる工夫を図り、連絡協議会全体でこのイベントを盛り上げていくことができれば、連絡協議会としての結束力が生まれ、総合型クラブの認知度向上や連絡協議会の存在意義、クラブ間の交流や一体感が創出され京都府全体の地域スポーツの振興に大きく寄与できると考えています。総合型クラブの趣旨「誰もが気軽に楽しめる」に合ったようなイベントを目指します。

ちなみに、今年度開催の第5回大会は平成29年10月29日(日)に京都府立山城総合運動公園で開催します。さらにパワーアップした本大会を間近で見て感じて体験していただければ幸いです。

(京都府クラブアドバイザー 畑 由紀子)

## ◎第5回京都ご当地グルメリレーマラソン開催概要

### 【開催日】

2017年10月29日(日)

### 【コース】

京都府立山城総合運動公園 太陽が丘特設周回コース

### 【参加費用】

一人4,000円(大人)／3,500円(大学・専門学校生)／3,000円(中・高生)／2,500円(小学生)

※早割特典:7月31日(月)までにエントリーが完了した場合、上記金額より一人マイナス500円

### 【エントリー方法】

WEBでエントリー

※インターネットによるエントリーの場合、参加費用に加えて別途手数料が一人100円

※入金先着順の定員制の大会のため、入金時にエントリーが確定

※WEB以外で申込ご希望の方は、事務局へお問合わせ下さい





## 連絡協議会 プロフィール

**設立年月日** 平成17年5月29日

**所在地** 京都府

**運営** 加盟46クラブ（平成28年6月現在） 予算規模およそ140万円（平成28年度）

**有給職員** 0名

**特徴** 平成27年度から運営委員会が設置され、連絡協議会の自立に向けて取り組んでいる。連絡協議会は地域性で4ブロックに分かれており、それぞれで活動を活発に行っている。全ブロックそれぞれで協働事業（ブロック交流会）を実施するなど横の繋がりを強化し情報交流を活発にする取組を行っている。また、連絡協議会自身の体力をつけるための方策も検討し、グルメリレーマラソンなどのイベントを実施している。

**連絡先** 〒601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館3階  
公益財団法人京都府体育協会内

電話番号 075-692-3423

FAX 075-692-3457

E-Mail club-info@kyoto-sa.com(代表)

URL <http://sports-net.kyoto-sa.com/>





# 連載

## みんなで盛り上げよう！ 東京オリンピック・パラリンピック

### パラリンピック・ムーブメント事例紹介



#### NPO法人新町スポーツクラブ ＜群馬県高崎市新町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、NPO法人新町スポーツクラブ(群馬県)が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

#### 第1回 みんな一緒にウキウキ交流会

<b>実施日時</b>	2017年3月26日(日)10時～12時
<b>実施会場</b>	高崎市立新町中学校体育館
<b>参加者数</b>	83名 障がい者38名(46%) ・身体障がい者10名～15名 ・知的障がい者20名～25名 ・精神障がい者5名～8名程 健全者45名(54%) ・幼児～中学生24名、一般参加者10名、主催団体関係者8名 ・学校、行政関係者3名 ※このほかに、12名の講師(ボッチャ10名、スローエアロビック2名)が参加
<b>主 催</b>	高崎市手をつなぐ親の会新町支部、NPO法人新町スポーツクラブ 高崎市身体障がい者団体連合会新町支部、自遊空間みちくさ(ボランティア団体)
<b>主 管</b>	NPO法人新町スポーツクラブ
<b>共 催</b>	新町体育振興会、新町地域スポーツ推進員
<b>後 援</b>	(公財)群馬県スポーツ協会、(公財)群馬県障がい者スポーツ協会
<b>協 力</b>	群馬県ボッチャ協会、うすねニュースポーツクラブ(沼田市)

#### ＜パラリンピック・ムーブメント＞

パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、より良い社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動

※「第2期スポーツ基本計画」参照



## 1 企画経緯

相模原障害者施設殺傷事件を受けて新町内の障がい者団体の方から新町区長会へ、障がい者も健常者も一緒に参加できるイベントを何か開催してほしいとの要望がありました。区長会長から新町スポーツクラブへ企画運営について相談があり、クラブとしてもオリンピック・パラリンピックムーブメントのことを考えていたことから障がい者団体とクラブが一緒になってこの交流会を企画しました。今回の経費は、新町体育振興会から特別助成金10万円を出していただき、講師謝金などに充当しました。

当初は行政区の代表者(新町区長会長)に事業の開催依頼がありましたが、区長会では困難との理由からスポーツクラブにお願いしたいということになり、区長会長と体育振興会長が検討して助成金を支出していただきました。

## 2 企画内容

- 準備体操** スローエアロビック(講師はうすねニュースポーツクラブ2名)
- ボッチャ体験** 講師は群馬県ボッチャ協会10名  
3コートに分かれて、ボッチャのルール説明、スロー体験  
健常者チームと障がい者チームに分かれて対戦  
子どもたちは、健常者・障がい者の混成チームもあった。
- クールダウン** スローエアロビック

## 3 参加者・運営側の声

### 参加者の声(実施後)

- 健常者も障がい者も一緒に楽しくパラリンピック種目を体験できました。
- すごく楽しかったです。このようなイベントは継続してほしい。
- パンフレットにもあった「まぜこぜ社会」の大切さを感じました。
- 今回のように健常者と交われる機会は、とてもありがたい。特に子どもの時から自然に接してくれる機会は、今まで地域になかったので嬉しいことです。ぜひ、継続して実施していただきたい。(知的障がい者の保護者)
- 障がいがあってもアクティブに動く努力をしている人がいることを知ってもらえる機会でありがたい。(身体障がい者)
- 地域の子どもたちが自然と障がい者と一緒に楽しんでいる姿が新鮮で、見ていてウキウキしました。(障がい者団体)



## 運営者の声(実施後)

- 初めての企画だったので健常者と障がい者がまぜこぜにできるか心配したが、最終的に一緒になって楽しんでいたのでホッとしました。すごく楽しかったです。このようなイベントは継続してほしい。
- 学校の体育館は老朽化しているため、多目的トイレはもちろん、洋式トイレもない状況で、企画運営側としてこのような点に配慮が足りませんでした。今回のように健常者と交われる機会は、とてもありがたい。特に子どもの時から自然に接してくれる機会は、今まで地域になかったので嬉しいことです。ぜひ、継続して実施していただきたい。(知的障がい者の保護者)
- 初めての企画として比較的円滑に実施することができた要因として、障がい者団体の方とクラブと一緒に企画運営委員会を組織して実施できたことと福祉協議会との連携協力がありました。

## 4 企画運営委での議論や工夫

- 地域への告知方法が一番の課題でした。高崎市広報からも広報誌への掲載について声をかけていただきましたが、高崎市全体から集まるリスクも考えて広報する範囲、パンフの配布方法について時間をかけて議論しました。  
結果として、①主催団体からパンフを関係者に配布する、②事前告知は、新聞社から掲載する連絡があったら掲載してもらうことにしました。
- 障がい者団体は、高崎市の中に合併町村の支部があり、細分化されていることから、様々な団体への連絡方法には連絡漏れがないように気を使い、運営委員で確認しました。
- 新聞社へのアプローチは、新聞社の立場になって「売れる見出しと内容」を意識してパンフを作成し、開催日5日前にFAX送信し、担当記者には個別に取材依頼を電話でしました。普段から記者と仲良くしていることが大きなポイントです。今回の売れる見出しは、「障がい者も健常者もみんなまぜこぜ社会へ」です。



## 5 企画運営上の重要ポイント

- 障がい者の団体は細分化されていますが、行政窓口として「社会福祉協議会」があります。この組織と連携することが重要で、なおかつ円滑に事業を進めるポイントです。
- 障がい者が参加することから障がい者用トイレの有無について、確認する必要があります。また、「てんかん発作」などの疾患についても想定する必要があるため、看護師の常駐は絶対条件です。
- 障がい者スポーツに対する健常者の感覚は、「軽い道具で簡単にできる」という安易な心構えになってしまう傾向があります。ルール説明の際に、道具の重さ、使用方法を体感してもらって想定している道具とは違うことを知ってもらうことから始めると良いと思います。また、健常者が障がい者を意識し過ぎると本来の交流にならないので、自然体に接することが大切ということを運営者側が留意する必要があります。子どもが良い潤滑油になってくれます。

## 6 今後の展望

- 参加したみなさんからも強い要望があることから、健常者と障がい者が一緒に体験できるイベントを継続して開催する予定です。
- 新町内の小学校からもPTA事業として開催したい旨の連絡があり、クラブと学校が連携して体験教室を開催することになりました。
- 2017年度から群馬県障害者スポーツ協会と県内総合型地域スポーツクラブが協力して県内4か所で障害者スポーツ体験交流会を開催します。

(NPO法人新町スポーツクラブ 小出利一)



## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成12年11月23日

**所在地** 群馬県高崎市新町地域

**特徴** 平成9年度からスポーツ少年団を核にした総合型地域スポーツクラブの育成を始めて、子どもたちを中心にしたスポーツ活動等を実施してきた。次世代育成事業として、平成11年からニュルンベルク市スポーツユースと定期青少年国際交流事業を実施している。また、平成27年度から、「赤ちゃんと保護者のためのベビーダンス教室」、「高齢者向けの貯筋運動教室」も開催している。

**連絡先** 〒370-1301 群馬県高崎市新町2483-2  
 電話番号 0274-42-2198(携帯:090-3912-0043)  
 FAX 0274-42-2198  
 E-Mail [koide.svc@chive.ocn.ne.jp](mailto:koide.svc@chive.ocn.ne.jp)  
 URL <http://shinmachi-sc.org/>



健常者と障がい者混成チームでボッチャの試合を体験しました。



健常者、身体・精神障害がある様々な人たちが笑顔で楽しく体験出来ました。



朝日新聞群馬県版3月24日付けに事前告知記事として掲載されました。



上毛新聞3月27日付けに当日の様子が掲載されました。





## 助成金情報

### 第11回 スポーツ教材の提供

**[実施団体]** (公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団

心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、スポーツ機会の充実にに向けた新たな取り組みを計画している団体に対して「サッカーボール」および「タグラグビーセット」の提供を行います。

**[申込期間]** 平成29年4月14日(金)～6月9日(金)

財団ホームページの「平成29年度 スポーツ教材提供募集申請フォーム」に入力の上、申請します。

<http://www.ymfs.jp/project/support/supply/h29/>

### エネルギー文化・スポーツ財団 平成29年度後期募集助成金情報

**[実施団体]** (公財)エネルギー文化・スポーツ財団

中国地域に所在し活動している団体が主催する、平成29年10月1日から平成30年3月31日までに実施されるアマチュアスポーツの振興活動(基本的には中国地域在住者が過半数を占めるもの)について、助成事業を行います。

**[申込期間]** 平成29年5月1日(月)から6月20日(火)※当日消印有効

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、簡易書留にて郵送します。

<http://www.gr.energia.co.jp/bunspo/application/cat1.html>

### 平成29年度ヨネックススポーツ振興財団助成事業〔後期〕

**[実施団体]** (公財)ヨネックススポーツ振興財団

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施し、交付対象の要件を満たしている団体を助成します。

**[申込期間]** 平成29年6月30日(金) ※当日消印有効

交付申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、対象団体であることを証明する書類を添付して、郵送で申請します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>

### 平成29年度子どもゆめ基金助成金〈二次募集〉

**[実施団体]** (独)国立青少年教育振興機構

子どもの健全な育成を図ることを目的に、平成29年10月1日から平成30年3月31日までの間に行われる子どもの各種体験活動に対する助成を行います。

**[申込期間]** 郵送および窓口持ち込み／平成29年5月1日(月)～6月6日(火)※当日消印有効

電子申請／平成29年5月1日(月)～6月20日(火)

郵送や宅配便の場合は、申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、簡易書留など配達記録の残るものを利用します。封筒には「申請書在中」と記入します。

<http://yumekikin.niye.go.jp/jyosei/index.html>





## お知らせ

### 公認スポーツ指導者資格情報

#### 平成29年度公認アシスタントマネジャー養成コース実施予定団体一覧を掲載！

公認アシスタントマネジャーは、総合型クラブなどにおいてクラブ会員が充実したクラブライフを送ることができるようクラブマネジャーを補佐し、クラブ運営のための諸活動をサポートする方を対象とした資格です。

平成29年度の公認アシスタントマネジャー資格概要および資格取得のための養成コース実施予定団体はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/220/Default.aspx>

### セミナー情報

#### ●日本体育協会関連事業

#### 平成29年度総合型地域スポーツクラブ ヒューマンエラー防止研修会開催

本研修会は、心理的アプローチからリスクマネジメントを学ぶことで「ヒューマンエラー（事故や損害の原因となる人為ミス）」の防止に係る意識の啓発を図り、安全・安心なクラブ経営に資することを目的に開催しています。

平成29年度の開催会場はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/1073/Default.aspx>

#### ブロック別クラブネットワークアクション2017開催

#### 【日本体育協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

開催日時・場所等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

#### 平成29年度日本体育協会公認スポーツ指導者ライブオンセミナー開催

スポーツ指導を行う上で指導対象者との信頼関係構築に不可欠とされる、コーチングスキルやコミュニケーションスキルについて、コーチング初心者を対象に、基礎知識の獲得を目指し、本セミナーを実施します。

開催概要・申込方法等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/news/tabid/81/Default.aspx?itemid=3521>

【申込締切】平成29年6月22日（木）

※先着順による参加決定とし、会場ごとに定員となりしだい募集を締め切ります。



## フェアプレイエピソード募集

「日本フェアプレイ大賞2018」エピソードを募集します。

スポーツ現場であなたが実践した「フェアプレイ」、あなたが見た「フェアプレイ」、感動した「フェアプレイ」など、みんなに伝えたいフェアプレイエピソードをお送りください。

応募されたエピソードの中から「日本フェアプレイ大賞2018」作品を選ばせていただきます。

【エピソード募集期間】平成29年6月1日(木)～12月31日(日)

フェアプレイエピソード 投稿ページ

<https://fairplay.japan-sports.or.jp/>

日本フェアプレイ大賞2017 大賞作品のマンガはこちらから

[https://fairplay.japan-sports.or.jp/inc/pdf/FPN\\_manga\\_2017.pdf](https://fairplay.japan-sports.or.jp/inc/pdf/FPN_manga_2017.pdf)

## 熱中症対策情報

これからの季節、屋内外の運動で特に気をつけたいのが熱中症。

スポーツによる熱中症はしっかりとした予防をすれば防ぐことができます。

熱中症対策をしましょう！

熱中症の病型と救急処置、

スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック等についてはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid/523/Default.aspx>